

**立教大学学術推進特別重点資金 (立教 S F R)**  
**大学院生研究**  
**2005 年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院 文学	研究科 心理学	専攻
<b>指導教員</b>	所属・職名	氏 名	
	文学部・教授	長田 佳久	印
<b>自然・人文の別</b>	自然 ・ 人文	<b>個人・共同の別</b>	個人 ・ 共同 名
<b>研究課題名</b>	顔の時系列パターンが表情認知に与える効果		
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
	文学研究科・心理学・後期 2 年	本間 元康	印
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年	氏 名	
<b>研究期間</b>	2005 年度		
<b>研究経費</b>	200 千円		

**研究の概要** (200~300 字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

顔の時系列的变化が表情認知に及ぼす効果を検討するために 2 つの実験を行った。実験参加者 6 名が両方の実験に参加した。2 肢強制選択で表情判断課題を行わせた。実験 1 では表情カテゴリー間の判断課題 (笑顔, 悲しみ顔), 実験 2 では同一表情カテゴリー内の判断課題 (笑顔, 苦笑い顔) を用い, 実動画像 (A) とモーフィング動画像 (M) の認知の差を検討した。結果, 実験 1 では A と M の正答率に差はなかったが, 実験 2 では差が認められた。実験 2 では, 課題の難易度が高まり, 運動情報の効果が大きくなったことが考えられる。これらの結果から, 顔の時系列的变化が表情認知に影響を与えていることを示唆した。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを 3 項目以内で記入。)

[ 表情認知 ] [ 顔の時系列的变化 ] [ 運動情報 ]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

日常の会話場面を想起してみると、私達の顔の表情は常に変化している。ある時はほほ笑みを交わし、ある時は感情を顔に表出している。絶えず変化する表情を読むことは容易に、しかも迅速に行われており、これは円滑なコミュニケーションにとって重要な要件の一つである。変化し動いている顔の表情認知に関わる研究は、静止顔のそれに比べるとこれまで極めて僅かであるが、変化する表情がいかに豊かで複雑な情報を持っているかということを見ると、表情認知研究の重要なテーマである。

顔の運動情報の効果を検討するために、実際の表情の動きを擬似的に再現したモーフィング動画像を刺激とする研究が次第に増えている。その一方でその使用に関わる問題点が指摘されているが、モーフィング動画像使用に伴う問題点に焦点を当てた研究は皆無である。しかしながら、先行研究はいずれも表情のモーフィング動画像を刺激として用いている。モーフィング動画像は擬似的に作成され、表情の時系列的な変化は一次関数的で、日常見ている実際の表情の時系列的な変化とは異なっている。実際の表情の時系列的な変化速度は一定ではなく、それぞれの表情や表出状況に依存して指数関数的、ないしは対数関数的であることが考えられる。

本研究は、一次関数的に変化する表情の動画像（以下、モーフィング動画像）と実際の場面でヒトが示す表情変化の動画像（以下、実動画像）を比較し、異なる時系列的変化をもつ顔の動画像が表情認知に及ぼす効果を検討した。

実験 1 では、実動画像とモーフィング動画像を刺激とし、表情カテゴリー間（笑顔と悲しみ顔）の判断課題を用いた。その結果、表情カテゴリー間の判断課題における実動画像とモーフィング動画像の正答率に差はなかった。表情カテゴリー間判断課題では、顔の時系列的変化の効果は生じないことが考えられた。

**研究成果の概要 つづき**

実験 2 では、顔の時系列的変化が表情認知に及ぼす効果を、実動画像とモーフィング動画像を用い、表情カテゴリー内（笑顔と苦笑い顔）の判断課題で検討した。その結果、実動画像に比べモーフィング動画像の正答率は低下した。この結果は、顔の動きを一次関数的変化にしたために、微細な特徴が失われ、表情の弁別が困難になったことによると考えられた。

表情カテゴリー間判断課題では、実動画像とモーフィング動画像の正答率及び正反応時間に差がなかった（実験 1）。しかし表情カテゴリー内判断課題における、実動画像とモーフィング動画像の正答率と反応時間には大きな差が見られたことから、表情カテゴリー内の判断課題では時系列的変化が表情認知の手がかりとなっていた（実験 2）。

実験 1 の結果を、課題が容易であったためと仮定すれば、表情カテゴリー間判断課題においても顔の時系列的変化が表情認知に影響を与えていると推測される。ヒトは微細な顔の運動情報を取得し、特に表情の識別が困難な場合は運動情報の取得を多くし、その情報から表情認知を行っていると考えた。